

氏名(本籍)	伊藤貴啓(愛知県)		
学位の種類	博士(理学)		
学位記番号	博乙第1,046号		
学位授与年月日	平成7年2月28日		
学位授与の要件	学位規則第5条第2項該当		
審査研究科	地球科学研究科		
学位論文題目	A GEOGRAPHICAL STUDY ON THE EVOLUTION OF INDUSTRIALIZED AGRICULTURE IN HIGASHI MIKAWA PLAIN, AICHI PREFECTURE (愛知県東三河平野における工業的農業の形成に関する地理学的研究)		
主査	筑波大学教授	理学博士	高橋伸夫
副査	筑波大学教授	理学博士	奥野隆史
副査	筑波大学教授	理学博士	斎藤功
副査	筑波大学助教授	理学博士	田林明
副査	筑波大学講師	理学博士	手塚章

## 論文の要旨

本研究は高生産性農業地域を工業的農業という観点から検討して、その営農的特質と地域的性格、形成過程と形成条件の分析を行うことで、工業的農業の特質、及びその地域形成過程と形成条件を解明したものである。それによって、課題とされてきた農業の工業化の展開過程と地域的性格の解明を試みた。

農業生産には土地が必要とされ、生産時間と直接の労働時間が異なり、季節性を伴う。工業的農業は以上と異なり、規格品の周年計画生産・周年定量出荷を特色としている。農家は施設化・機械化・化学化によって土地などの生産環境の拘束性のある程度克服しながら、経営内分業によって周年生産を行っている。工業的農業の経営は利潤を目標に家計と分離されている点で、従来と異なっている。工業的農業の特質は資本集約型の施設型農業であり、経営者機能を強めながらも家族経営形態を保ち、組織化によるスケールメリットを生かした工業的農業の協同類型に属することである。また、その地域的性格は集約性と粗放性という相反する土地利用の併存、都市化地帯の良質農地での積極的な農業生産の維持、及びそれらが本地域の立地特性に基づくという点に集約されている。

工業的農業地域は導入期・形成期・成熟期を経て形成・発達してきた。導入期に、先覚者は地域性を考慮して、産地間競争などを契機に新作物・新技術を導入した。その後、形成期に地域では先覚者を中心に組織化がはかられ、指導的農家・一般農家・組織を構成主体とするシステムが形成された。しかしながら、それは産地間競争や需要構造の変化からその存続・発展を目的に転換され、成熟期に

至った。成熟期には、農業経営は未利用資源を少なくさせる方向で発展し、周年計画生産・周年定量出荷に帰結した。その過程で、産地は市場での独占的地位を確立し、農業経営は工業的農業の特質を備えていった。

導入期の形成条件は先覚者の存在と市場への近接性であり、地域農業の伝統や自然環境を地域的基盤とした。形成期以降、存続・発展の条件はシステムの各構成主体への人的資源の供給と都市化の波及度であり、前期までの技術・情報・信用基盤と地域の伝統や自然環境・社会経済的環境を地域的基盤とした。また、技術革新や農業政策などの外部条件は、その形成・発展を助長する条件であった。

以上から、工業的農業地域では都市化地帯の指導的農家の開発した技術体系、組織と市場との信用関係、技術・市場情報の入手を基盤に、指導的農家・一般農家・組織を構成主体とするシステムが形成され、諸条件の変化にそれを転換させながら発展してきたことが解明された。その過程で、農業は工業化され、農業経営は工業的農業へと変容してきた。

## 審 査 の 要 旨

本研究は高生産性農業地域を工業的農業という視点から、詳細な現地調査に基づいて検討し、その営農の特質と地域的性格、形成過程と形成条件を解明したものである。

農業生産には土地が必要とされ、生産時間と直接の労働時間が異なり、季節性を伴うものである。工業的農業は以上とは異なり、規格品の周年計画生産・周年定量出荷を特色としている。農家は施設化・機械化・化学化によって土地などの生産環境の拘束性を克服しながら、経営内分業によって周年生産を行っている。また、工業的農業の特性は資本集約型の施設型農業であり、経営者機能を強めながらも家族経営形態を保持し、組織化によるスケールメリットを生かした工業的農業の協同類型に属することである。また、その地域的性格は集約性と粗放性という相反する土地利用の併存、都市化地帯の良質農地での積極的な農業生産の維持、及びそれらが研究地域の立地特性に基づくという点に集約されている。

本研究は、従来多数ある農業地理学の研究業績の中では、農業地域を工業化という視点によって分析した開拓的研究として、高い評価を与えることができる。

よって、著者は博士（理学）の学位を受けるに十分な資格を有するものと認める。